令和６年度学校評価書

多賀町立多賀中学校

１．本年度の学校目標　　**分掌名**

豊かな人間性を持ち、たくましく生き抜く力をそなえた生徒の育成　～ひとすじに学び、たくましく鍛え、すこやかに励む～

２．本年度の重点目標

「学力向上に努め、教員の授業力を向上」および「信頼される学校づくり」

３．評価項目（自己評価と学校評議員の評価）A：(3.0以上）　B：(2.5以上3.0未満）　C：(2.5未満）

大項目	中項目	評価項目	評価指標	自己評価	改善策	学校関係者評価	学校関係者意見、提言
確かな学力	教育計画・授業改善	学習指導の充実	授業のめあてがしっかり提示できた	A	・タブレットは教師側に一人一台あるので、もっと授業での活用の幅が広がると考えられる。CANVAやPADLETなど使えるツールを職員で共有することも視野に入れていきたい。 ・言語活動はどの教科も意識的に取り入れているが、ICTを使って瞬時のアイディアの共有や確認ができるよう効果的な方法をこれからも考えていきたい。 ・授業のめあては全教員が意識して提示できているので継続が大切。 ・「振り返り用紙」は教科によって実施できている教科とそうでない教科がある。また、実施している教科では、評価には生かせているが、次時の授業に生かせているかでいうとそうではないので、学習の調整に生かしていけるようにしていきたい。 ・スティーム教育は大切だと思うが、年度が明けてバタバタと始まった感が否めず、授業の調整が大変そうに見えた。学校教育目標を全員が意識し、行事や総合的な学習、校内研修については、前年度から振り返り方向性を定めて次年度に臨めるようにした方がよいと思う。 テストについては、小テストが重なると子どもも大変さを感じるので、教科間で調整をしたり、朝活で曜日を決めて1日だけ小テストの日にしてもよいのかとも思う。 ・教科を横断する形でICTの使い方の指導があるといいと思う。他にも3年間を見通した総合学習のあり方など考えるべきだと思う。 ・言語活動はどの教科も意識的に取り入れているが、ただの交流にならないよう効果的な取り入れ方をこれからも考えていきたい。 ・1学期の中間テストがなくなったことに対して、教育相談の時間がしっかりとれたと思う。しかし１回分のテストがなくなったことによって、生徒一人ひとりの学習に対する意識が低くなったような気がした。３年生は受験を控え、小テストと１回の定期テストで１学期の成績が出てしまうので、焦りもあったように感じた。また教科によっては膨大なワークの提出量（範囲）になり、こまめに提出をうながしていても、答えを写すだけで学習が身についていないとの保護者の声もあった。１学期中間テストを今後もどうしていくのか、もう一度考えていくべきだと思う。 ・学習の習熟度を教師が確認する機会を増やしたい	A	・学学調査の結果に振り回される必要はないが、教師も生徒も目標として取り組むことは悪くない。 ・生徒数の少ないことを強みとして捉え、きめ細かな指導がしていけるよう心がけることが大切。また、そのことが若い先生方の指導力の向上につながると思う。 ・めあてはしっかりと提示され良いと思う。振り返りを次の授業に活かしてください。 ・習熟度の確認を行い、写すだけの学習にならないように配慮をしてほしい。 ・めあての提示など全教職員が共通に実践することと、年間を通して継続していくことにより生徒の学力定着につながっていくと考える。 ・授業力の向上を図るためには、どの教科においてもパーティカルな部分での共通認識をすることが必要であり定期的な校内研究の場で高めあうことができる。 ・授業で振り返りの時間をしっかりとって次の課題へ進ませることも共通実践していきたいところである。 ・教員自身の振り返りも多忙な中で充分に時間が取れないかもしれないが、時には誰かに授業をみてもらって改善していく姿勢は若手もベテランも必要と感じる。 ・まだまだ教師が一方的に説明する時間が長く、子供の出番が少ないように感じる。（参観した授業がたまたまならそうかもしれないが･･･）魅力ある授業づくりに努められたらと思う。 ・「振り返り用紙」をかかせるのは、教科の特性によるものなのか、実施に際して工夫が必要。 ・令和5年より教員のアンケート結果が良くなった。
			「振り返り用紙」が次時の工夫に生かせた	B			
			教育活動は、年間計画に基づいて進められた	A			
		「思考力」「判断力」「表現力」の育成（主体的・対話的で深い学び）	個に応じ、思考をさせる質問に努めた	A		A	
			授業にペア学習・グループ学習・言語活動を意識的に取り入れた	A			
		特別支援教育の推進	インクルーシブ教育に対して、個別支援計画を作成した。	B	・今年度も支援部会の定期的な開催ができなかったことが大きな反省点である。支援が必要な生徒の情報をこまめに共有することが重要なため、来年度には学校の行事として支援部会を設定していきたい。 ・来年度から個別の教育支援計画の様式が変更され、なおかつ担任や教員の学年配置の変更で支援計画の引継ぎに困難が予想されるため、来年度当初の教育支援計画については、現担任が準備することを提案したい。また、５月の家庭訪問等で支援計画を保護者に開示し、ともに支援が必要な生徒の指導にあたっていけるようにしていきたい。 ・支援員さんには支援が必要な生徒の情報や、教師の指導の補助に大変お世話になった。生徒達も信頼を寄せており、来年度も継続してお世話になっていきたい。	B	・インクルーシブの視点は大切だが、支援の必要な生徒が埋もれてしまう事のないように、その生徒が力を付けなければならない課題が何かを把握して指導に当たるべきである。自立して生きていける力が最優先されるべきだと思う。 ・保護者との良好な関係を保ちながら、ともに支援し指導を行ってほしい。 ・特支学級在籍生徒が、交流学級での学習に参加した時の支援方法については十分に相談しながら進めていくべきだと思う。 ・個別の支援計画は様式が変更されても前担任が作成しておき、次の担任への引継ぎをしっかりしておくことが重要である。 ・支援学級にいても学業に限らず伸ばせる個性（運動、性格等）を褒めて伸ばしてほしい。
	基礎・基本の徹底	きめ細かな指導の充実	基礎基本の徹底のため、小テスト等の工夫が行えた	A	・年度当初に単元テストや小テストの実施を確認したことにより、基礎基本の徹底のための小テスト等の工夫は、前年度に比べて実施できている割合が増えている。小テストの実施のタイミングや形式は教科によって異なるが、生徒の小テストに向けて学習に取り組む姿が多く見られた。しかし、実技教科などにおいては、作業の時間の確保のために実施できていないこともあり、教科の特性に合わせた進め方を検討していく必要がある。 ・補充学習や個に応じた指導、板書の工夫をすることを教師全体として意識することができている。定期テストや単元テストを意識して授業を進めることができているからではないかと考える。	A	・繰り返しと継続が重要だと思う。 ・今後の小テストを授業や学習に活用してほしい。 ・小テストはsmall stepで学習事項を確認でき積み重ねることで基礎学力の定着につながっている。各教科間でのテストの実施方法や内容について交流する場も必要だと思う。
			補充学習の充実等、個に応じた指導ができた	A			
			生徒の学習の理解を促進する板書の工夫ができた	A			
豊かな心	特別活動	適正な学校行事生徒会活動	行事との関わりで、生徒を活かす活動ができた	A	・昨年度の反省から学活、総合の時間を授業に振り分けてもらった。特に学活の時間が少なく困ったという声は、なかったので来年度もこのままでよいと思う。 ・学期ごとに学活の授業数の確認する時間をとることができず、教務の先生にすべて数えてもらっていた。 ・生徒からの要望により、文化祭を開催することはできたが、当初の生徒の考えとは、大きく違った文化祭になった。劇や有志発表をするにあたって、練習時間や準備物の問題がある。劇などをするのならば、授業時数をかなり文化祭に振らなければならない。来年度以降も開催するのならば、文化祭の準備期間を多くする必要がある。	A	・部活動の意義を共有し、地域からのサポートも受けながら、よりよいスタイルを作りだしていけばよい。犬上3町の連携は必須であると思う。 ・決められた時間の中で文化祭を行えたことは生徒にとっても良いことだと思います。できるなら来年以降も継続してほしい。 ・生徒会担当の教員が生徒の主体性を大事にしながら関わり、生徒自身で考え取り組む場面を設定することで、活性化されたように思う。町の行事をはじめ、学校行事においても生徒の出番が増えることで自信がついてきたと思う。
			年間のバランスを考慮した行事配列になっている	A			
			生徒会活動は、委員会等の年間計画に基づいて活動できた	A			
			生徒の自主性が尊重され、自治能力が培われた	A			
	生徒指導	生徒指導機能の具現化	生徒指導において学年・学級の枠を越えてフットワークよく活動できた	A	・学年で動くことが多く、生徒指導主事まで情報の共有ができていないことが多々あった。 ・学年間でも情報の共有ができずに適切な対応ができないことがあった。 ・家庭訪問をするべきか迷うようなときに、電話連絡だけで済ませていることも多く見られる。迷ったら家庭訪問する方が、動いていることがわかりやすく、信頼につながるのではないか。 ・規律は基本的には守れているが、細かなところで後手に回ることがあったので、事前に検討して先手を打って行く必要がある。 【改善策】 今年度は生徒指導部会の実施回数が少なく、また、学年間や学年から生徒指導主事への情報共有が十分ではなかった。週に一回の生徒指導部会を確実に行い、その時々の情報共有や、出てきている懸案事項を話し合うことで情報共有ができ、先手先手の生徒指導を行うことができると考える。	B	・学校長はじめ教師が生徒達に納得する言葉がけをしていけば、大きな崩れは無いと思う。「なるほど～」と思わせる生徒指導が大事。 ・情報の共有を密にし保護者と共に指導にあたってください。 ・情報を共有し生徒指導に当たってください。 ・授業に複数の教員が入ることは学習補助のみならず生徒指導の視点からも重要である。今年度、授業参観していると職員室でずっと仕事をしている先生は減ってきて、自分所属学年の生徒の様子を見に行く姿が多く見られるようになった。
			決まりが守れ規律ある学級等の集団づくりができた	B			
		問題行動への対応	問題行動等に関して、情報交換などにより、共通理解が図れた	A		A	
			生徒指導委員会を中心に、組織的対応ができた	A			
	（道徳教育人権教育）	差別・いじめを許さない集団づくり	差別やいじめを許さない集団づくりができた	A	【人権教育について】 １学期には憲法学習、２学期は１年生が身近な人権、２年生がアイヌ民族に関する学習、３年生はハンセン病に係る学習など、学期に一度ずつテーマを設定した人権学習を行えたのは大きな成果だった。また、３年生で、「中学認知症サポーター養成講座」（多賀町役場福祉保健課と連携）や、「福祉学習」（多賀町社会福祉協議会と連携）といった、ワークショップを取り入れた福祉学習を行い、高齢者に対する人権意識を高める取り組みを行った。 人権委員の活動も４年目となり、生徒のなかにも活動が定着してきた。１２月には人権委員が「第４２回全国中学生人権作文コンテスト入賞作文集」の作文を、朝学習の時間に全校生徒に５回シリーズで朗読した。そして、その朗読を聴いての感想を人権委員が通信にまとめ、全校生徒に配布された。生徒による人権の授業については、難しい部分はあるものの生き生きと行っている様子が見られた。授業については、１年目は上級生が下級生に授業を行い、２年目以降はそれぞれの学年で行った。学年で行うと集中して聞けない状況が見られたため、担任や人権委員の負担は大きいものの、上級生が下級生に行う形式の方が望ましいのではないかと思われる。	A	・今の生徒たちが尊敬するモデルの生き様に触れさせたい。 ・人権作文の朗読をされることは良いと思います。今後も続けてください。 ・アンケートの結果からほとんどの生徒と保護者は、いじめや仲間はずれがないととらえているのは、様々な角度からの人権学習や日々の取組の成果だと思う。しかし、少数ではあっても、いじめがあると感じている生徒がいるのでその対策は丁寧にしていくべき。 ・部活動の少ない中、学年間を越えて交流する機会を今後も増やしてほしい。
			全校集会・学年集会等の取り組みが効果的であった	A			
			授業等を通して、人権教育を推進できた	A			
	読書指導	朝読書	朝読書の時間を効果的に使うための工夫ができた	B	昨年度に引き続き、国語科でビブリオバトルやブックトーク、美術科では地域の図書館と連携し推し本の紹介を全校規模で行うなど読書啓発活動に努めることができた。また、図書室の開館の回数を増やすなど、新しい取り組みも行った。しかし、学校として朝読書に取り組める機会が少ない現状がある。朝読書の時間は、活字に触れる貴重な機会のため、学校を上げて取り組んでいきたい。	B	・生徒が紹介する「お勧めの本」の取組は、とても効果的だと思う。 ・今後もよいと思われることは継続して取り組んでください。 ・図書館と連携することで、さらに本の興味をが高まっているので、学校での朝読書の取組も大切にしてほしい。 ・活字離れが進む中、読書をするだけでなく（読ませるだけでなく）読書に良さや楽しみ方も指導してみては？読書や読み聞かせ等。
健やかな身体	保健室経営	食育の充実	食育通信等を活用し、食物への感謝について指導できた	A	・コロナ禍以降していたランチタイム前後半を、３学期からなくし、全校でランチをいただく形になった。そのことで、全校生徒一斉に、食育指導や保健委員会の給食週間の活動を行うことができた。反面、選んだ献立に偏りができると、片方に行列ができてしまい喫食時間が遅くなり十分な時間確保ができない日もある。また、早くに食べ終わった生徒の、立ち歩き等が目立ち、衛生面や生徒指導面での課題が出てくることが考えられる。今後、学年や生徒指導と情報共有しながら、生徒にとって楽しいランチタイムになるようにしていきたい。	A	・給食を利用して生徒の良き交流ができると良い。 ・生徒にとってコミュニケーションの場であるので、マナーを守った良い場所になることを望みます。 ・子どもにとって日々楽しく食事ができる環境を整えることで食育にもつながり、子ども同士の交流の場にもなっている。多賀中は全校ランチができる規模なので食育が進めやすい。 ・自慢できる食育を今後も続けてほしい。ただし好き嫌いの問題や食べ残しがないことは理想ですが。
			ランチルームでの給食指導が適切にできた	A			
信頼される学校	キャリア教育	系統的な進路学習	学年に応じた進路指導ができた	A	・総合的な学習の時間では、3年生での進路選択や将来どのように生きてい行きたいかという視点をもって、１年職業調べ、2年職場体験や進路学習などを進めることができた。 ・各学年のフォルダに保存しているデータを、年度末にキャリア教育や総合的な学習の時間のフォルダに（ショートカットなどで）入れる。1年間の学活総合計画を年度末に見直し、学校行事とのかかわりを見据えて、検討していく。	A	・大きな夢を持たせるキャリア教育が大事。また、この地域を大切にしていこうとする若者の育成も図りたい。 ・中学生での進路選択は漠然としていて難しいと思いますが職業調べや体験によって何かきっかけがつかめると良いですね。 ・2年生の職場体験は将来に向けての貴重な機会となっている。役場や校園から中学生の頑張っていた様子について耳にした。
			人生設計を意識したキャリア教育ができた	A			
	地域行事への参加	環境学習の推進	ゴミなどがない綺麗な学校づくりに努めた	A	・各教室のほうきが壊れたり、紛失することがあるので予備としていくらかほうきを多めに用意しておくべき。まだ、予備は、あるが数は少ない。 ・去年に引き続きびわこの日に外部の講師の方に講演をしていただいた。	A	・理屈でなくクリーン作戦的な行動・体験が必要だと思う。 ・自分たちの生活環境は自分たちできれいにするという、生徒の意識は高い。
			環境整備作業等の体験的な取り組みができた	A			
		生徒の地域行事への参加推進	生徒が地域の行事へ参加するように働きかけた	B	・授業参観には多数の参観があったが、PTA講演会や総会の参加者が少ない。 【改善策】　令和７年度は総会は紙面議決に変更、PTA講演会は実施しないことにした。保護者が学校に来ていただく機会づくりのため、授業参観の回数を増やす。保護者に知ってほしいことはSNSを活用するなど別の方法で提供する工夫をする。 ・PTAの部会の活動を各部会任せになっていることがある。 【改善策】休日の活動については、教員が全員参加することは難しい。地域行事の開催が休日であることが多いことから、職員全体が参加することは困難である。一部の職員に役割が偏らない様に役割分担を検討する。 ・本年度、学校だよりや有線放送、テトルなどでの情報発信。町民の集いやふるさと楽市への生徒の参加。町図書館や結いの森での卒業展や作品展示など学校での活動を発表する場づくりを行ってきた。今後も地域への参加を積極的に行い、地域とのよい連携のあり方を模索し、信頼される学校づくりに努めたい。	B	・地域学習により、地域の現状を知ること。地域の良さや課題を知ることでキャリア教育や豊かな心の育成にも広がっていくのではないでしょうか。 ・保護者が気軽に足を運べる学校でありたいですね。 ・教師のサラーマン化の中での行事参加は大変だと思いますが、できる範囲での参加をお願いしたい。（教師の自己評価を受けて） ・授業参観の回数を増やし保護者とのつながり強化は良いと思います。 ・多賀町は町の行事の中で中学生が活躍できる機会が多くあり生徒の意識は高い。 ・PTA活動の在り方については、転換期を迎えており、従来のやり方では無理な部分が出てきている。思い切って変更していくことも必要である。 ・教員も多賀町を知るのに地域行事に参加されるのはいいことだと思うが、休日が多く難しいとも思われる。 ・参加も良いがもっと校外（役場、図書館、公民館等公共施設や有線放送などのマスコミ）に生徒の成果の発表や発信をしては。校内に納めるにはもったいない。生徒や保護者の自信につながるのでは。 ・少子化の中で参加者も限られ苦労されていることを案じます。
			教師が地域の行事や会議等に積極的に参加した	B			
	保護者との連携	PTAとの連携	PTA活動に参加し、保護者等とのつながりを強化した	A		A	
			学校・学年・学級等の通信やメールで情報発信に心がけた	A			